

# 地質ニュース

昭和 47 年 8 月

第 216 号

1972

解 説	地 向 斜 玄 武 岩 ②	
	陸と海の火山および火山岩	服 部 仁・1
	小規模沈置式マリンドリルのまとめ	河 後 英 幸・16
トピックス	岩石の磁性測定～最近の測定器とその応用～	齊 藤 友 三 郎・25
	地質調査所 海外技術協力の功績により	
	表彰される	海外地質調査協力室・32
	地質調査所中国出張所	植 田 芳 郎・34
講 演	明ばん石および Listowenite (一種の石英-炭酸塩岩)	
	の産状と成因について	富 樫 幸 雄 訳・36
海外事情	オーストラリアの地質鉱床研究機関	高 島 清・41
資 料	太平洋の鉄・マンガン団塊 ③	盛 谷 智 之 訳・50
	書庫からの便り ④	資 料 室・62
	地学と切手	P. Q.・31
	学会掲示板	24・40

## 編 集 地 質 調 査 所

### 火 山 の 年 輪

#### 表 紙 の 写 真

伊豆大島火山の南西麓近くの道路切りで見られる この美しい火山碎屑物の累層は 地学者のみならず一般観光客の目をひく。 露頭に近づいてこの波状の縞模様をよく観察してみると それぞれの縞は粗粒なスコリアとそれを覆う褐色に風化した火山灰のセットからなることがわかる。 このような目で見ると 写真に写っている範囲内だけでも100枚をこえる火山碎屑物の層を数えることができる。 放射性炭素による炭質物の絶対年令の測定や 古記録に残っている火山活動経過とその堆積物との比較などから 粗粒なスコリアは数ヶ月で降り その後数年間細粒の火山灰が降下し およそ100年から200年間の活動休止期に当時の地表面から風化が進んだという歴史がたどれる。 このような様式の火山活動がリズムに起こったらしい。 この切りには今から1・2万年前から現在に至るまでの大島火山の成長の“年輪”が刻まれている。 波状の縞模様はもとの地形の起伏に沿って火山碎屑物が降下・堆積して生じたもので褶曲構造ではない。 写真中央に見られる“不整合”はきわめて局部的であり かつその凹所に斜層理を示す火山砂礫が堆積していることから 軟弱な火山碎屑物が“豪雨”によって短時間の内に削られて生じた浸食面である。 このような“不整合”は切り口の右端にも見られる。

(文 一色直記 写真 正井義郎)

発 行 株式会社 実業公報社